第３学年　道徳科学習指導案

日時：令和５年１０月４日　５校時

場所：３年教室　指導者：齋藤久美子

授業テーマ：自分事として捉えるための話合いやワークシートの活用を通して，インターネット上のコミュニケーションの場面において，「相手の気持ちを考える」とはどうすることかを考えさせる授業

１　主題名　　　相手の気持ちを考える（Ｂ－（９）相互理解，寛容）

２　教材名　　　言葉の向こうに（中学道徳　明日を生きる３・日本文教出版）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

　　　　「寛容」とは，「心が広くて，よく人の言動を受け入れること。人のあやまちをとがめだてせず許すこと。」（『旺文社　国語辞典第十一版』）である。人にはそれぞれ自分の考え方や立場があり，それらを認め，尊重していくことが多様性を理解する上で大切なことである。コミュニケーションの場面においても大切なのは，まずは相手のことを理解しようとする態度であり，そこから他者の多様な個性を受け入れ，互いに学び合おうとする態度につながっていく。インターネット上のコミュニケーションにおいても，相手の気持ちを考え，寛容の心をもって謙虚に他に学ぶことが自らを高めていくことになる。

（２）生徒の実態について（生徒観）

（略）

（３）教材について（教材観）

　　　　主人公「私」は，ヨーロッパのサッカー選手Ａのファンであり，ファンサイトで仲間との交流を楽しんでいる。しかし，一部の心ない書き込みに腹を立て，自身も感情的な書き込みをして注意されてしまう。自分が注意されたことに不満をもちながらも「言葉の向こうにいる人の顔を思い浮かべてみて」という言葉にハッとするという内容である。感情に任せて言葉がエスカレートしていく様は，生徒にとっても共感できる場面であると考えられる。「私」の気持ちに共感させながらも，「自分だったらどうだろう」と自分事として考えさせるのに適した教材である。

（４）指導について（指導観）

導入では，インターネット上の字面でのやりとりを途中まで見せ，興味をもたせる。展開では，教材に沿って「私」の心情の変化を整理した後で，「私」が「だめだなあ。いちばん大事なことを忘れていた」と振り返ったことに対して納得できるかどうかを話し合わせる。「私」がしたことは本当に「だめなこと」だったのかどうかを話し合う中で，画面の向こうにはいろいろな立場や考え方の人がいること，それらを一概に否定するのではなく受け入れることで円滑な人間関係が築けること，インターネット上のコミュニケーションは，対面でのコミュニケーションよりも複雑で難しいことなどを考えさせる。終末では，感情に任せた書き込みは決して他人事ではなく，自分にも起こり得ることとして想像させ，実際にどうすればいいか判断しようとする態度を育てる。

４　本時のねらい

それぞれの立場を尊重し，いろいろなものの見方や考え方があることを理解して，寛容の心をもって判断しようとする態度を育てる。

５　学習指導過程

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動（◎中心発問・予想される生徒の反応） | 時間 | ○指導上の留意点　※評価 |
| 導　入 | １　ネット上でのやりとりの字面を途中まで見て，続きを予想する。 | 5 | ○「私」が怒りに任せて発言していることを押さえ，続きに興味をもたせる。 |
| 展　開 | ２　「言葉の向こうに」を読み，考える。  （１）朗読ＣＤで内容をつかむ。  （２）「私」の気持ちの変化を整理する。  ①Ａのインタビュー記事を教えてもらったとき  ②「負け惜しみなんて最低」と書いたとき  ③「中傷する人たちと同じレベルで争わないで」と言われたとき  ④「言葉の向こうにいる人々の顔を思い浮かべてみて」と言われたとき  （３）「いちばん大事なことを忘れていた」の「いちばん大事なこと」とは何か考える。（◎）  　・相手の顔を思い浮かべること  ・相手の気持ちを考えること  　・画面の向こうには，いろいろな人がいること  （４）最後の「私」の考えに納得できるか話し合う。  　ア　納得できる。（＝「私」はだめだった。）  　イ　納得できない。（＝「私」はだめではない。）  （理由として予想されること）  　ア　・このまま続けていても炎上するだけ。  　　　・悪いわけではないが，一歩引くべき。  　　　・感情的になっても解決しない。  ・インターネット上は顔が見えないので加減ができない。  ・見ていて嫌な気分の人もいるかもしれない。（「おめでとう」で共感した人もいた。）  ・相手の気持ちを考えていなかった。  ・相手の考えを理解しようとしていなかった。（なぜそんなことを言ったのか。）  　イ　・自分は悪くない。  　　　・中傷する人には注意しないといけない。  　　　・こっちの気持ちも分かってもらいたい。  ３　自分の生活や内面を振り返る。  （１）感情的に書き込んでしまった経験やその時の気持ちを考える。 | 35  （10）  （5）  （5）  （15） | ○ワークシートに「私」の気持ちを書き込ませて発表させる。  （ワークシートＢ）  ○自分がどう思うかではなく，「私」の考えを整理させる。  ○④の場面では「そうだ……。だめだなあ。いちばん大事なことを忘れていた。」を拾う。  ○自分の考えを整理するためにワークシートに書き込ませてから発表させる。　　（ワークシートＣ）  ○「納得できる」「納得できない」「迷う」で理由を考えさせる。  （ワークシートＣ）  ○相手の気持ちを考える部分に焦点を当てる。  ・「相手の気持ちを考えているのはどちらだろう。」  ○どちらか一方に意見が偏った場合は，教師が揺さぶりをかける。  ・アが多い場合…「Ａ選手を思ってかばったのに，だめなことなのか（Ａ選手は嬉しいのでは？）。」  ・イが多い場合…「コミュニケーションで大切なのは『相手の気持ちを考えること』ではないのか。」  ○インターネット上の「相手」とは誰かを考えさせる。  ○相手の考えを理解しようとすることが「寛容の心」のスタートであることを知らせる。  ※　「相手の気持ち」「相手とは誰か」「寛容」などを自分事として考えているか。  （発言・ワークシートＣ） |
| 終　末 | ４　本時を振り返る。  （１）これからどんな心情をもって生活していくか。  （２）教師の説話を聞く。 | 10 | ※　相互理解について，自己を振り返り，これからの身がまえについての考えを深めているか。（発表・ワークシートＣ）  ○　文字だけのやりとりで感情を理解することの難しさについての話をする。 |

